
歪みと世界 自分は歪み彼女も歪み

刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歪みと世界 自分は歪み彼女も歪み

【Nコード】

N7177N

【作者名】

刹那

【あらすじ】

歪んだ自分の存在とはなにか？ 窮地に達した少年が取った選択はいつの間にか他の少女をも巻き込んでいた。それに気付いた少年は……。

悲しみのオリジナルストーリー。

（前書き）

第六回、思いつき余興作品。
興味があつたらお読みください。

この街が嫌いだった。

色んな思い出が染み付いた場所だから。

自分が嫌いだった。

自分の存在は世界の歪みでしかないのだから。

学校が嫌いだった。

行ったところで得るものなど無いのだから。

全てが嫌いだった。

形あっても心が無いのなら不必要だから。

いつも街の中で突っ立っていた。

街を歩いたらいつも昔を思い出す。

自分がまだ歪んでいなかった頃のことを。

だからいつも街の真ん中で思い出に浸っていた。

いつも校門の前で立ち尽くしていた。

この門を跨げなかった。

歪みが存在しない場所に歪みが行く必要は無いのだから。

だからいつも閉まっていく門を目の前で黙ってみていた。

いつも鏡を見ていた。

歪んでしまった自分を見ていた。

歪みが歪みを見たところで何かが起こるわけでもないのに。

でもいつも歪んだ自分を責め続けてながら鏡を見ていた。

滑稽だと笑うが良い。

運命に齒向かった結果、この様に歪んだことを。

愚劣だと囁けば良い。

こんな自分が存在していることを。

「そんな事ありません」

いつしか自分の背後には彼女が立っていた。

「まだまだ道は長いです。諦めなければまた元に戻れます」

彼女はなぜか必死だった。

「帰ってきてください」

自分は彼女を知っている。

いつも校門の前で立ち止まっているとき話しかけてくれた人。

「あなたはまっすぐな人です」

いつも街の真ん中で突っ立っているとき話しかけてくれた人。

「歪んでなんていません」

いつも鏡を見ている時、鏡越しに笑いかけてくれた人。

「だから……私を置いていかないでください」

置いていくのは本望じゃない。

だけど行かなくてはならない。

歪んだ人間の運命として。

もう自分には齒向かう力は残っていない。

後は流されるままに……。

自分が彼女を歪ましてしまっている事に気づいたのは……

……彼女が自分と一緒に屋上から飛び降りたのを知った時……。

E N D

（後書き）

意味が分からない部分も多々あると思います。

感想などで色々指摘いただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7177n/>

歪みと世界 自分は歪み彼女も歪み

2010年10月9日20時36分発行